

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

全国代表者会議開催(3月27日) ～岩手・宮城・福島 3県からの震災に関する報告～

会議に先立ち、参加者全員で東日本大震災により亡くなられた方々に対し、黙祷を行いました。

中村中央執行委員長はあいさつの冒頭で、「『東日本大震災』で、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。また、災害に遭われた方々に対して心よりお見舞い申し上げます。さらに、日教組組合員、退職教職員、教職員共済関係者はじめ、教職員、学校関係者、各方面で昼夜を分かたぬ献身的な救援活動、復興活動に当たられておられる全ての方々に深く敬意を表します」と述べました。



【あいさつをする中村中央執行委員長】

全国代表者会議では、「東日本大震災」の状況について、岩手・宮城・福島の3県から報告がありました。抜粋してお知らせいたします。

岩手高教組 上田委員長より

ある小学校では、地震直後に、車で迎えに来た保護者に児童を連れて帰らずに避難するように説得したものの、静止を振り切って帰ろうとし、学校を出た近くで津波が襲い、車が流れていくのを教職員、児童が目当たりにしたという痛ましい報告がありました。

また、ある高校では、津波が校舎一階を水没させる高さまで押し寄せたのですが、屋上に避難した教員が流されてくる人々を手製のいかだをつくり5～6人は救い上げたものの、その近くでは力尽きて沈んでいく多くの人もいたという悲しい報告もありました。

このような中で、岩手高教組は震災直後に岩教組と合同で両教組災害対策本部を立ち上げ教職員および児童生徒の安否確認、校舎の被害調査等にとりくみました。被災直後は、全県での公共交通機関の不通、電気・ガス・水道などのライフラインが途絶し、その中での安否確認・情報収集は困難を極めました。特にガソリンがなく高校での卒業生の安否確認がなかなかすすまず、自転車で出先や避難所をまわるなどしたものの、いまだに卒業生を中心に安否確認がで



きておりません。両教組の対策本部では緊急車両の指定を受け、その車両で沿岸地区の被災学校をまわり、被害情報を収集し、避難所では必要物品の聞き取りを行い、連日盛岡から沿岸地区へ両教組あわせて、6～7台の車両で物資輸送と情報収集を行っています。

宮城高校教育ネットワークユニオン 板橋事務局長より



宮城の人的被害は、死者が小中高の児童生徒あわせて147人、教職員8人です。不明は児童生徒が837人、教職員が43人、被害施設の校数が608校、現在避難者が集まっている学校数が225校となっています。

仙台市街地は、ほぼ平常どおりの日常に戻りつつあります。水道・電気とも復旧し、見た目ではなんら日常と変わらない日々が続いているように見えます。しかし、そこから数キロ東にいくと、この世と思えないような惨状が展開しています。

いまだに車の中に閉じ込められて処置されていない遺体、あるいは海中に沈んだ遺体、それから木の上に打ち上げられた3歳4歳の女の子の姿を見たということを知りました。そういう戦場のようなところと市街地とのあまりの落差に呆然とするしかないという状況です。

全国の支援が本当に必要だと思います。組織としての支援の表明もいただきましたし、あるいは各単組から応援等メッセージをいただきました。この力強い支援のお言葉を心の支えにして復興にまい進してまいります。

福島県教組 角田書記長より

多くの単組から物資の支援やボランティアの支援など、たくさん申し出をいただいておりますが、福島県では震災から2週間たった今も、一部の地域では復興の動きができていないものの、全県的には元気を出して復興へという状況にはなっていません。県教組としても復興支援の態勢、支援の受け入れ態勢が整っていない現状です。

復興にむかわない大きな原因として原発の事故があります。津波の被害が大変大きかった地域では、その放射能の影響で捜索活動がすすまない現状です。原発の近くでは活動すらできないというような状況になっています。そういったなかで、行方のわからない子どもたちもたくさんいますし、子どもたちや教職員の身内の行方がわからない方もまだまだたくさんいます。事故を起こした原発は、目に見えない放射能を出し続け、いまだに原発そのものが危険な状況です。

いま学校現場は、新学期にむけた準備がすすめられています。被災地域や原発周辺の地域から避難をしている多くの人、子どもたち。こういった人たちの動きがまだまだ一定のところにとどまらず、動いている状況にあります。県内の各学校でも新学期の子どもたちの転入・転出の数がつかめていません。多くの方も県外に避難して、県外でも受け入れ態勢をとられているということで、避難をしている子どもたち、県外に4月からお世話になるとき、多くの県教組・高教組のみなさんによりしくお願いをしたいと思います。

